

しゅうれんかい (修練会) からのメッセージ

公益財団法人豊島修練会 2015年12月17日号 (通算第3号)

子どもたちへ (小さなお子さんには読んであげてください)

日曜日の午前中、近くの川岸を散歩しました。そのとき、三人の子どもに出会いました。<かわいい女の子>釣りをしているお父さんの隣で、女の子が柵から身を乗り出して川の中を覗き込んでいました。私が「お嬢ちゃん、危ないよ」というと、「だって見えないんだもの!」と文句を言いました。結局、柵から落ちて、大きなたんこぶができました。

<普通の男の子>川岸で釣りをしていました。おばあさんが、「あらこんなところで釣れるのかしら? 坊や何が釣れるの?」と聞きました。「はい、オイカワです」「え! 川で小川が釣れる?」と不思議そうな顔をして行っていました。おじいさんが来て「ぼく、何か釣れたかい?」「はい、クチボソが3匹釣れました」「よかったね、返事もよかった。ハハハ…」
<いたずらそうな男の子>川岸の金網をのぼって、流れの中に浮かんでいる岩の上のいるウシガエルを捕まえに行こうとしています。それを見た見知らぬおじいさんが、「坊や何がしたいの? 危ないよ、怪我をするよ」「すみません気を付けます」「謝らなくてもいいよ。素直で、いい子だね」と。男の子は、はるか向こうの階段のところから降りて、ウシガエルを見事にゲットしました。



大人 (パパ&ママ、ジジ&ババ) の皆様へ

我が家は、私の大事な古本と、妻のサイズが合わず着られない古着で埋もれそうです。

最近、週刊誌「アエラ AERA」(2015年10月12日号)を読んだら「情報断捨離がアイデアを生む「捨てる哲学2情報編」が載っていました。これは、あれこれたくさんの本が積んであるわが書斎(物置)を片付けるには少し役立った。要は、絶対ほしいという本以外は買うな、何年も開いていない本は捨てる(その気になるが、実際は、その本にまつわる思い出があって捨てられない)、本にばかり執着するなということです。理屈は分かるが、変化は今のところなし。断捨離と言えば、やましたひでこの「新かたづけ論・断捨離」(マガジンハウスムック)を思い出しました。「不要なものは断ち(買わない)、必要ないものは捨てる、そして、ものに執着することから離れる」と言う生活術・処世術である。妻に、そのことを話した。いっぴく素直に「そうね! そうしてみようかしら」と言いつつ、午前中に広げた衣類を、午後には少し丁寧にならんとて収納してしまった。似た者夫婦です。



学校の先生がたへ

子どもが「自分が知らないこと」を知っている先生に尋ねることを「質問」と言い、「よく分かっている」先生が、「わかっている(わかっているかどうか)」子どもに尋ねることを「発問」と言われています。でも、そんな単純なものではないのです。

発問には、「①既習事項や既有体験を引き出し学習に生かす」「②学習意欲や関心を引いたり高めたりする」「③課題を理解させ解決意欲をもたせる」「④結果の予想屋解決の見通しをもたせる」「⑤解決のための助言やヒントを提示し、思考の方向性を示し解決意欲を強める」「⑥グループや学級の学び合いを促す」「⑦解決の家庭や結果を整理し、一つの結論に導く」などの役割があります。このことを理解して、指導のねらいや学習活動に合わせて活用すると効果的です。

